

わたしたちのできること

## ご挨拶

本年横浜におきまして第4回アフリカ開発会議(TICADIV)が開催されることを嬉しく思います。冷戦終結と共にアフリカに対する世界的な関心が低下していた1993年に初めて開催された同会議は5年ごとに継続して行なわれ、本年は第4回目の開催となります。日本が長期的にアフリカ諸国とこうしたカタチで関係を築いてきた事は、日本の外交の一つの成功例であると考えられます。

ご存知の様に本年、開催されます第4回アフリカ開発会議(TICADIV)は国際都市、横浜にて開催されます。横浜市は1859年に国際港として開港して以来、海外からの窓口としての役割を担って参りました。そして来年、2009年は開港150周年を迎えます。こうした歴史を持つ国際色豊かな横浜市において第4回アフリカ開発会議(TICADIV)が開催される事も感慨深いものがあります。

第4回アフリカ開発会議(TICADIV)の開催にあわせて、模擬国連委員会は日本のユース(若者)の一つとしてアフリカの文化、実状、そしてそこに生きる人間の生活を紹介するプロジェクトを立ち上げました。この機会を通じて1人でも多くの皆様にアフリカの魅力、実状、生活を知って頂き、アフリカに対する理解を深めて頂けたら幸いです。

さて今回、我々はセミナーという「知る」機会の提供をさせて頂ける事となりました。

ただこれまでこうしたイベントを行った際に多くの参加者の方から「私たちは何が出来るのでしょうか?」という質問を頂いてきました。セミナーで「知った」事実に対して、自分たちは何が出来るのかそれを考えることはとても大切なことであると思ひますし、そうした当事者意識こそが国際協力には必要であると思ひます。

そこで今回、我々は『わたしたちができること』としてユース団体やNGOの取組を紹介したいと思います。

模擬国連委員会 TICAD プロジェクト代表

鈴木 洋一

## Hot Africa

ホームページ: <http://hot-africa.net/>

### (1) アフリカへの支援、援助に関してどのような活動をされていますか？

直接的な支援などは行っていません。ユースとして、もっと長期的な視点から、日本国内にて以下の活動をしております。

#### ① アフリカ情報ポータルサイト

ポータルサイトを作成し、アフリカにまだ関心を持たないそうにも興味をもってもらえるよう、きっかけ作りをしています。

#### ② アフリカセミナーシリーズ

JICA地球ひろばにて他のアフリカ関連ユース団体と協働してセミナーを開催しております。

#### ③ シンポジウム

TICAD4の開催にあわせてアフリカのユースとビデオ会議を通じてお互いの意見を交換します。

### (2) 一市民である私たちが、国際協力のために身近に始められる事、意識すべき事は何でしょうか。

大そうなことを言える分際ではありませんが、まず自分が知ること、そして自分を知ることが大事だと考えます。アフリカに関係なくいえることだと思いますが、もう少し噛み砕いて言えば、①海外で起こっていることをまず自分が知り、知識としてただ蓄積するのではなく、自分の頭で理解し自分なりの意見をもつ。そして、②その自分の意見をできるだけ相対化する、ということです。この②がなかなか出来ないのですが、自分の意見を絶対化しないという心構え(自分を客観視できなければ、とも言い換えられます)はとても重要なように思います。

## 模擬国連委員会

ホームページ: <http://www.jmun.org/>

### (1) アフリカへの支援、援助に関してどのような活動をされていますか？

模擬国連活動はアイデンティティを超えて、他者理解の促進を図る総合学習です。模擬国連活動は1923年にハーバード大学で始まった模擬国際連盟を起源とし、世界60カ国以上で行なわれている活動です。日本では1980年代に緒方貞子氏(元国連難民高等弁務官)を顧問として活動が始まり、現在では大学生を中心に日本中で活動が行なわれています。模擬国連活動では個々の参加者はそれぞれ各国の国連大使となり、特定の議題を話し合う国際会議のシミュレーション(模擬会議)を行ないます。シミュレーションを通して、それぞれの問題が抱える背景を客観的に理解し、現実的な解決策を模索します。我々は実際に活動をするというわけではありませんが、問題の背景を理解すること、特にその際にその土地に住む人々の文脈に立って理解することが重要だと考えています。またシミュレーションを通じて、1人でも多くの人に国際問題に当事者意識をもって頂ければ幸いです。

**(2)ー市民である私たちが、国際協力のために身近に始められる事、意識すべき事は何でしょうか。**

私たちはグローバル化の中で、経済的にも文化的にも繋がっています。私たちの身の回りには様々な国から輸入された者が有り、私たちは生活する上で世界中の人々に支えられています。こうした状況のなかで地球の裏側で起こった問題に対して「他人事」ではいけないと思います。

そしてそれ以上に、どこで生まれようと私たちは同じ人間であり、地球に住む仲間であるという意識を持つことがこれからのグローバル社会の中では必要なんだと思います。

国際協力でも、国内の問題に対しても、『他者の存在』を意識することが第一歩だと思います。

## **特定非営利活動法人 アイセックジャパン**

ホームページ： <http://www.aiesec.jp/>

**(1)アフリカへの支援、援助に関してどのような活動をされていますか？**

アイセックの事業の中心は海外インターンシップを通じた人材育成です。アイセックの学生組織が世界100ヶ国にあることを活かした、世界各地での企業・NGOでの研修機会や、メンバーによる事前勉強会や研修報告会など一連の学習機会の提供を通じて、途上国の視点や途上国に学ぶ姿勢を身に付けるきっかけ作りを目指しています。「将来グローバルイシューに対してどう関わるかを自ら模索する学生を輩出する」という長期的支援の一環として活動を捉えています。

**(2)ー市民である私たちが、国際協力のために身近に始められる事、意識すべき事は何でしょうか。**

「身近な国際協力」というと、募金やボランティアなど具体的なアクションが連想されがちですが、私はこの問いの答えは「知る」ことだと思います。何かアクションするにも、いま国際社会で何が起こっていて、何が求められているのかに鈍感だと、意義ある協力が出来ないのは明らかです。世界に向けてアンテナを広げる人がもっと増えれば、よりよい世界のあり方は自ずと見えてくると思います。ただし、現代は一つの価値観を皆が共有する時代ではありません。知る姿勢を保ちつつ、物を疑い、多面的な見方を試みることは国際協力について考える時にも有効ではないでしょうか。

## **NPO法人日本エチオピア学生会議**

ホームページ： <http://www.ab.cyberhome.ne.jp/~ethiopia/index.html>

**(1)アフリカへの支援、援助に関してどのような活動をされていますか？**

学生という立場から、エチオピアを中心としたアフリカの学生と“対等”に交流をしています。ですので、対等な関係ではない支援や援助とは全く別のカタチとなります。

活動内容は年に1度、エチオピアのアフリカ連合に、将来各国のリーダーとなっていくアフリカ中の学生を集め、ディスカッションをしています。ディスカッションの議題は、紛争や貧困問題、発展など、多岐にわたります。

**(2)ー市民である私たちが、国際協力のために身近に始められる事、意識すべき事は何でしょうか。**

まずは“知ること”だと思います。

アフリカの現状について、テレビやイベント、書籍、インターネット等を通じて。

ただ、“国際協力のため”と思うと、アフリカに対してネガティブなイメージばかり持ってしまうがちになるので注意も必要だと思います。渡航経験があればわかりますが、アフリカは豊かな自然や多様な文化を持ち、そこには密で温かな人間関係があります。

国際協力一辺倒にならず、多角的な視点からアフリカを見ることが、本当に必要な国際協力を行うために私たちが日ごろ意識すべき事だと思います。

## **特定非営利活動法人アフリカ日本協議会**

ホームページ：<http://www.ajf.gr.jp>

**(1)アフリカへの支援、援助に関してどのような活動をされていますか？**

メールマガジン「グローバル・エイズ・アップデート」配信、ウェブサイトでのアフリカに関する情報提供、アフリカの食料安全保障に関する公開セミナーの開催などを通して、適切な情報提供をもとに支援のあり方を考え、必要に応じてアドボカシー活動などを行うなどの取り組みを行っています。アフリカ紛争問題タスクチーム作成のファクトシート(ソマリア、北部ウガンダ)をウェブサイトからダウンロードすることができます。

**(2)ー市民である私たちが、国際協力のために身近に始められる事、意識すべき事は何でしょうか。**

適切な情報に基づいて国際協力のあり方を考えることが重要です。そのために、以下の点を常に意識することが必要です。1)「ニュース」になるのは「非日常のできごと」であり、ジャーナリストの関心によって「ニュース」になるものが変わってくる、2)複数の情報源を参照する、3)国際協力の対象となる人々自身の声、行動に注目する。気になるニュース、国際協力について感じた疑問などありましたら、遠慮なく問い合わせてください。

## **社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン**

ホームページ：<http://www.savechildren.or.jp/>

### (1) アフリカへの支援、援助に関してどのような活動をされていますか？

SCJIは2005年から2006年にかけて、スーダンの西ダルフールで、水と衛生および教育事業を実施しています。手動ポンプおよび電動ポンプによる井戸を52箇所に掘削・設置し、また6校の学校の修復および仮設の学校1校を設置しました。これにより、およそ計10万人の子どもやその家族たちの生活が向上しました。現在、新たな支援の可能性を検討準備中です。

### (2) 一市民である私たちが、国際協力のために身近に始められる事、意識すべき事は何でしょうか。

まずは、世界で何が起きているか、なぜそれが起きているかを知ること。そして自分は、もしくは自分たちの子どもたちのためには、どのような社会・環境・世界であってほしいか、あるべきかを日々考えること。そのために、寄付をする、ボランティアに参加する、もしくは仕事として関わっていくなど、やりたいことや、やれることが見えてくる、または調べられるかと思えます。アンテナに引っかかった問題や団体について理解を深めてみるのも、国際協力を始めるきっかけになるのではないのでしょうか。

## バオバブの会

ホームページ：[http://www.ajf.gr.jp/lang\\_ja/db-ngo/baobab.html](http://www.ajf.gr.jp/lang_ja/db-ngo/baobab.html)

### (1) アフリカへの支援、援助に関してどのような活動をされていますか？

バオバブの会では、アフリカ、まずはセネガルの子供達が必要な教育を受けられるようになるための支援活動をしています。教室、トイレ、教師用宿舎、給食設備、図書館などを作ったり、教科書やノートなどの文房具を贈っています。アフリカにはいろいろな支援が必要なのに、なぜ教育から始めることにしたのかは、教育さえあれば、貧困、病気、環境と食料不足などの問題を、アフリカの人々自身の手で解決できるようになるからです。また、アフリカと日本の子供達の交流も推進しています。(226字)

### (2) 一市民である私たちが、国際協力のために身近に始められる事、意識すべき事は何でしょうか。

まず、先進国が豊かであることと途上国が貧しいことが実は関係していることを、日本の皆さんに考えていただきたいと思えます。そして、バオバブの会としては、会員になる(年会費5000円)、寄付、福引や販売活動などへのサポート、フェスティバル等のイベントへのボランティアとしての参加などを歓迎します。また、セネガルと日本の小中学校の交流推進のため、学校を紹介して下さるのもありがたいです。

## オックスファム・ジャパン

ホームページ：[www.oxfam.jp](http://www.oxfam.jp)

### (1) アフリカへの支援、援助に関してどのような活動をされていますか？

## オックスファムの長期開発支援

### <南アフリカ共和国>

エイズ問題への理解や啓発活動を通じた予防、治療の促進に地元パートナーと連携し取り組んでいます。また、政府や関連機関に必要な保健医療サービスを提供できる基盤、仕組みを早急に確立するよう要求していきます。

### <モザンビーク>

果物・野菜の種や農耕用の家畜を支給し、農業トレーニングを行い、地域の人びとの食料の確保と収入を得られるようにします。また、HIV/エイズについての意識啓発活動も同時に展開します。

**(2)ー市民である私たちが、国際協力のために身近に始められる事、意識すべき事は何でしょうか。**  
キャンペーンへの署名や、ボランティア、写真展リレーの企画や、トレイルウォーカー(5月16-18日に行われる小田原から山中湖までの国際協カウオーキングイベント)の参加、メルマガで情報を集めたり、寄付をしたりと様々な「あなたにできること」があります。「一人ひとりの力が世界を変える」を信じて、小さなことから良いので始めてください。誰もが人間らしい生活を保護され、自分の人生の決定者になれる世界が、オックスファムの目指す世界です。

## ミレニアム・プロミス・ジャパン

ホームページ [www.millenniumpromise.jp](http://www.millenniumpromise.jp)

### **(1)アフリカへの支援、援助に関してどのような活動をされていますか？**

国連ミレニアム開発目標に沿って、最貧困の村々を包括的に支援するミレニアム・ビレッジ・プロジェクト(10 カ国 80 村)に協力しています。具体的には農業、②基本的な健康、③教育、④電力、輸送、コミュニケーション・サービス、⑤安全な飲料水と衛生設備の5分野への支援と投資です。日本とアフリカの若者を相互に派遣する事業も行います。

### **(2)ー市民である私たちが、国際協力のために身近に始められる事、意識すべき事は何でしょうか。**

日ごろから世界のニュースに触れ、世界の出来事に敏感になってください。できれば実際に発展途上国を訪れて、一日一ドル以下の生活を送る人々の暮らしを知って欲しいと思います。自分たちの恵まれた環境を実感し、どんな小さなことでもそれぞれが日本や世界のために何かできることがあると気づかれるでしょう。